

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							目標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
7	自らの考えを深め、協働的に課題を解決する力を育成する。	★	継続	主体的・協働的に課題に取り組み、解決する力を高める。	生徒が見通しをもって学習できる単元構成や言語活動を工夫することにより、課題を解決する力を高める。さらに、生徒が自らの成長・変容を自覚できる取組を工夫する。	①「授業の課題を自分から進んで考えることが面白い。」②「授業の課題を友だちと協力して解決することが面白い。」③「授業の課題を80%以上にする。」	①75.2% ②94.0% 各教科で、課題探究型の単元構成を工夫することにより、協働的な学びが面白いという意識を高めることができた。また、教職員が共通認識をもって取り組み、研究テーマに基づいた授業実践ができた。今後は、授業の課題を自分から進んで考えることが面白い、と感じる生徒を増やしていかなければならない。	3	3	全ての生徒が主体的な学びを深めていけるよう、生徒の実態を的確に把握し、授業展開をしていく。そのためにも、授業後の振り返りを重視し、授業交流やその検証、校内研修の深化を図り、個別最適な学びを実現していく。また、生徒のがんばりを評価することを通して、学び意欲をより高めていく。				
4	自他を認め、思いやりの心を育成する。		継続	自己と他者のよいところを認め、他者と関わりの中で、思いやりのある生徒を育てる。	思いやりの心をもって人と接することができる場面及び自己を見つめる機会をもたせる。また、他者との関わりの中で、他者を評価することにより、集団の力を高める。	①「自分は他の人の役に立った。」②「自分にはよいところがある。」③「他者のよいところに気付いた。」という肯定的評価を85%以上にする。	①94.9% ②69.3% ③95.7% 学活の時間に他者のよいところを見つけたり、日々の授業で生徒のがんばりを評価したりする取組を行った。しかし、②が目標値に達していないということは、自己肯定感を高めることができていない、ということである。	3	3	2学期も、他者のよいところを見つける活動を継続して行う。また、行事を通して、思いやりの心をもって人と接することができる場面や自己を見つめる機会を設定する。さらに、肯定的な評価を適切に行い、生徒のやる気を引き出し、自己肯定感を高めていく。				
7	たくましく生きるための健康・体力づくりを推進する。		継続	主体的に体力を向上させようとする生徒を育てる。	生徒が主体的に体を動かすことができるよう、自らの課題を多様な方法で解決できる授業を行う。	①「体育の授業で進んで体を動かすことができた。」という生徒の肯定的評価を90%以上にする。	①90.6% 「できる」「できない」ではなく「やる」「やらない」をポイントに体を動かす姿勢を評価していくことで学習活動への意欲を高めることができた。	4	4	主体的に粘り強く学習に取り組む習慣の定着に向けて、自らの課題に向き合える場面を多く設定する。部活動の枠を超え、顧問が協働して合同で活動する時間を設け、少人数化している部活動の活性化と体力の向上をめざす。				
5	保護者・地域から信頼される学校運営を推進する。		継続	積極的な情報発信をし、保護者・地域へ学校の様子を伝え、信頼される学校運営をする。	学校での取組や行事、生徒のボランティア活動の様子などを学校通信・学年通信・ホームページ・メール配信などで月1回以上発信する。	①「通信やホームページなどで、学校や各学年の様子、地域でのボランティア活動の様子がよくわかる。」という保護者の肯定的評価の割合を90%以上にする。	①84.7% 第2学年の学年通信は、ほぼ毎日発行し、ホームページの更新は月2回以上行った。学校通信や第1学年通信及び第3学年通信は、月1回未満の発行だった。メール配信は、主に緊急連絡で利用し、学校での取組や行事、生徒のボランティア活動の様子などの配信は少なかった。	4	4	学校での取組や行事、生徒のボランティア活動の様子などがわかる写真や生徒作文をより多く発信し、学校通信発行・学年通信発行・ホームページ更新・メール配信などの回数を増やす。				
			継続	教職員の働き方改革が、生徒の学びにつながるような学校運営をする。	年間行事予定を基に、学校行事などに早目に取り組み。その際、効率化・精選・業務時間の短縮化などを図ることにより、生徒に関わる時間を増やす。	①時間外在校時間が月45時間以内の教職員を100%にする。	①87.3% 会議は、要点を絞って行うとともに、文書での連絡を増やすことにより、会議の短縮化を図り、生徒に関わる時間を増やすことができた。しかし、業務の内容が明確にできていない面があり、意思疎通を図ることに時間がかかった。	4	4	学校行事を成功させるための計画を早めに細かく立てること、業務の内容を明確にすることにより、意思疎通が確実に図り、より効率化を進めていく。				

【プロセス評価の評価基準】

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協働的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協働的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協働的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協働的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協働的な課題解決が図られなかった。

【達成評価の評価基準】

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

【総合評価の評価基準】

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。